

## 第2回アイランドシティ低炭素型都市ビジョン検討委員会

### 議事要旨

■ 日時：平成22年11月4日（木）10時から12時まで

■ 場所：福岡市役所本庁舎15階 1503会議室

■ 出席者： (順不同，敬称略)

|        |                                    |                              |
|--------|------------------------------------|------------------------------|
| 委員長    | 出口 敦                               | 九州大学大学院人間環境学研究院教授            |
| 委員     | 青 和彦                               | 西部ガス株式会社リビングエネルギー本部リビング営業部部長 |
|        | 赤司 泰義                              | 九州大学大学院人間環境学研究院教授            |
|        | 末廣 香織                              | 九州大学大学院人間環境学研究院准教授           |
|        | 蜷川 利彦                              | 九州大学大学院人間環境学研究院教授            |
|        | 橋本 淳                               | 福岡市環境局温暖化対策部長                |
|        | 永富 伸二                              | 福岡市港湾局アイランドシティ事業推進部長         |
| オブザーバー | 橋本 上                               | 九州電力株式会社経営企画本部企画担当地域戦略グループ長  |
| 事務局    | 福岡市港湾局アイランドシティ事業推進部企業誘致課，日本環境技研(株) |                              |

■ 配付資料：

- ・第2回 アイランドシティ低炭素都市ビジョン検討委員会 次第
- ・アイランドシティ低炭素型都市ビジョン 骨子（案）
- ・アイランドシティにおける進行中のプロジェクト及び今後の計画

■ 議 事：

1. 開会

2. 議事

(1) 前回会議における質問事項の回答について

前回会議において出された質問事項について，事務局から以下の説明があった。

事務局 ・ 前回会議において，委員から「第三次福岡市地球温暖化対策地域推進計画」における家庭部門で世帯あたりマイナス8%，業務部門で床面積あたりマイナス14%，というCO<sub>2</sub>排出量の削減目標については，運用時のCO<sub>2</sub>排出量のみが対象なのか，それとも建設時のCO<sub>2</sub>排出量も含まれているのか，とのご質問があったが，家庭部門と業務部門ともに運用時のCO<sub>2</sub>排出量のみが対象となっている。

・ なお，CO<sub>2</sub>排出量は，環境省の算定マニュアルに基づいて算定している。具体的には，家庭部門においては，福岡市の家庭で実際に使用された電力や燃料の消費量にエネルギー種別のCO<sub>2</sub>排出係数を乗じて算出している。業務部門においては，業種別の建物床面積と電気や燃料の消費量を基に算定した業種別エネルギー種別消費量に，エネルギー種別のCO<sub>2</sub>排出係数を乗じて算出している。

(2) ビジョン骨子（案）について

「アイランドシティ低炭素型都市ビジョン 骨子（案）」について事務局から説明を行い，その後以下の質疑・意見があった。

(構成)

- 委員等 ・「1.3 ビジョンの理念」では経済性・快適性が示されているが、一方「2. 取り組みの方向性」では環境性・先進性ばかりが目立つ内容になっていることが気になる。
- 委員等 ・「2.1 全体」から「2.2 分野別」の展開は急に各論に入る印象を受けるので、「2.2 分野別」の前段階で、各分野における環境性・先進性・独自性、また、経済性・快適性、そして委員から提案があった「美しさ」の基本的な考え方を整理すると良い。
- 委員等 ・例えば交通分野では、具体的取組みで新交通の導入ではなく電気バスレベルで留めているのは環境性と経済性のバランスを考えてのことと思われるが、それらの考え方を「2.2 分野別」の前段階で整理すると良い。
- 委員等 ・「2.2 分野別」の中で、各分野における先導モデルについての明記が必要ではないか。
- 事務局 ・先導モデルとは、各分野単体の取組みではなく、各分野で達成することをパッケージ化したまち全体で考えている。委員のご指摘の通り、立地特性だけでは先導モデルには成り得ないので、環境性・経済性・快適性なども含めて考えている。
- 委員等 ・先程の環境性・経済性・快適性などの整理と同様に、先導モデルについても、「2.2 分野別」の前段階で何が先導モデルなのかを整理した方が良い。
- 委員等 ・まとめると、「2.2 分野別」の前段階において、5つの分野のそれぞれについて、環境性・経済性・快適性の基本的な考え方、先導モデルの頭出し、更には地域特性の生かし方をそれぞれ整理することで、ビジョンの理念と取り組みの方向性が繋がるのではないか。
- 事務局 ・次回会議までに、ビジョンの理念が全体と繋がるよう「2. 取り組みの方向性」について再検討したい

#### (経済性)

- 委員等 ・ここで言う“経済性”とは、極端に高価な技術はあまり導入しないとの解釈で良いか。
- 事務局 ・ビジョンでは、他のまちでもやってみたいと思われるようなまちづくりを目指している。その場合、国からの多大な支援が必要な技術は普及性が見込めないため、市場に乗り始めたレベルのものをイメージしている。

#### (独自性)

- 委員等 ・「2.1 全体（基本的な方向性）」(1)の説明文に“地域特性（新規開発エリア）地域資源（豊かな自然環境）などを生かした独自性のある低炭素化の取組み”とあるが、独自性とは何か。
- 委員等 ・また、地域特性とは海の中に立地しているなどのことを通常指すものであり、新規開発エリアであることだけが地域特性ではないと思われる。
- 事務局 ・ここで考えている地域特性や地域資源は、アイランドシティならでのものという意味であり、具体的には周辺が海であることや外周緑地があること、更には自転車交通を想定した空間が整備されていることなどを想定している。
- 事務局 ・新規開発エリアと明記した理由については、新規開発のためインフラ整備が比較的容易であることも、アイランドシティの特性として考えているからである。

- 委員等 ・つまり、新規開発のメリット、周辺が海に囲まれているなどの立地特性、更には地域資源（立地特性の一部かもしれない）、これらの独自性を生かした取組みを実施するということがよいか。
- 委員等 ・「1.3 ビジョンの理念」では“アジアにおける～先導モデルを目指して”とあるが、地域的な独自性に拘ることはモデルにならないとも考えられる。その意味では、経済性・快適性・美しさを、環境性・先進性に上手く整合させることが独自性に繋がるという考え方もあると思う。
- 事務局 ・その通りである。
- 委員等 ・“独自性”がまだ見えてこない。他のまちでも導入できるようなまちづくりを目指すとのことであったが、「次世代エネルギー・社会システム」のようなまちづくりが行われている中で、やはりまちづくりの目玉は必要ではないか。
- 事務局 ・目玉の1つは、面的な取組みを進めている「CO<sub>2</sub>ゼロ街区」である。また、「2.2 分野別（5）環境活動 長期」にあるように、アイランドシティにある様々な環境資源を活かした活動についても、目玉と考えている。
- 委員等 ・地域限定の実証事業も独自性の観点からはあり得るが、事業期間が過ぎると終わってしまうものも多く、予算もかかるため現段階では考えていない。
- 委員等 ・「CO<sub>2</sub>ゼロ街区」については、現段階では全国的に目玉として打ち出せるものである。ただし長期的に考えた場合、もう少し年代を意識した、例えば“歳をとっても住みたいまち”のような考え方も必要と思われる。
- 委員等 ・先程の委員のご指摘の中で「CO<sub>2</sub>ゼロ街区」がまちづくりの目玉とのことであったが、どんな技術やアイデアが導入されており何が目玉なのかが見えていない。また、「CO<sub>2</sub>ゼロ街区」は現状では目玉になり得ても、同様の事例が出てくれば目玉ではなくなるおそれがある。
- 事務局 ・「CO<sub>2</sub>ゼロ街区」も5年経てば一般的なまちになると予想している。したがって、今後20年にわたる開発の中のそれぞれの時点での最新の技術を導入したまちづくりを目指すことが基本的な考えであり、ビジョンの中では「CO<sub>2</sub>ゼロ街区」の導入技術を詳細に示すのではなく、そのような考え方を目玉として打ち出すことを検討している。また、継続性の観点から施策的な面についても言及していきたいと考えている。

#### （住宅・建築物）

- 委員等 ・前回会議において少し議論があったと思われるが、リサイクル資材の建築への積極的な利用を検討してはどうか。建築基準法で使用材料が規制されているため現状では難しい状況にあるが、例えば特区のように新しいものを認める仕組みができれば、リサイクル資材を使った低炭素型の都市をつくれる可能性がある。また、機器の耐用年数に比べて建築資材の耐用年数は長いので、費用の面でも有利と思われる。
- 委員等 ・特区をつくって建築基準法を覆すことは難しい。戸数が多いのであれば、大臣認定を貰う方が良いと思われる。
- 委員等 ・大臣認定ではどこでも出来てしまう。福岡市が取り組むことで何かしらの仕組みが可能になり、それによって賛同する人達が集まってくるのが期待できるのでは。
- 事務局 ・リサイクル資材の利用は、建築構造面での問題は無いのか。

- 委員等 ・性能的な問題は無いが、構造材で使うこと自体が規制されているため、ほとんど使われていないのが現状である。
- 委員等 ・リサイクル資材の利用は原材料により異なってくる。鉄についてはリサイクル材を100%使用することは可能だが、コンクリートについては路盤などでの使用はあるが建物に使うことは難しい。木材については仕上げ材についてリサイクル材の利用などがある。CO<sub>2</sub>削減の観点からそれらを構造材として使えば面白い。
- 委員等 ・木造での大規模建築については、制約も多いが研究により高層化も可能になってきている。したがって、例えば防火などに関する法的規制など、ある一定条件を設け、その条件下での使用を認める誘導施策は可能と思われる。
- 委員等 ・リサイクル資材の積極的な利用は、アジアにおける先導モデルにも繋がるのではないか。
- 委員等 ・コスト面ではどうなのか。
- 委員等 ・導入の初期段階ではコスト高になることが予想される。ただし材料費については、新規開発材料を除くと、コンクリートなどは路盤での使用で一般的になってきているので、決して高いものではない。
- 委員等 ・コンクリートについては市の方針があれば利用可能と思われる。また、まちの開発はもう少し先なので、リサイクル資材についての情報収集を行っておくことは重要である。
- 委員等 ・リサイクル資材の利用については、方針や先導モデルの中に盛り込んでどうか。
- 事務局 ・検討させて頂きたい。

#### (地域)

- 委員等 ・都市景観や建築デザインについての目標がない。自然景観を守るためにもまちづくりにおける景観は重要であるため、その辺をどうすべきかについて明記すべきだと思う。
- 委員等 ・また、“美しい”都市景観をつくるというメッセージを盛り込んだ方が良い。このままでは技術的には凄いが景観はばらばらなまちができるという印象を受けるので、景観についてはきちんと方向づけるべきと思われる。
- 委員等 ・アイランドシティでは、デザインガイドラインを別途作成していると思うが、ビジョンとの棲み分けはどう考えているのか。
- 事務局 ・デザインガイドラインは博多港開発株式会社工区を中心としたものが既にあるので、それを市5工区まで広げる形で、技術的なことを含めて詳細に記載していく予定である。
- 事務局 ・市5工区においては、新しいデザインガイドラインを遵守すると共に、低炭素部分についてはビジョンに基づいた開発を事業者に求めていくことになる。従って、景観についてより専門的なのはデザインガイドラインであり、ビジョンでは、人々に“低炭素型の良いまち”ができるとしてもらえる程度の言及が必要と考えている。
- 委員等 ・それらの役割分担についての記載が必要と思われる。
- 委員等 ・また、「1.3 ビジョンの理念」に“環境性・経済性・快適性を兼ね備えた魅力ある～”とあるが、委員の意見を踏まえ、この中に“美しい”の文言を付け加えることを検討してはどうか。
- 事務局 ・役割分担についての記載を含め、検討していきたい。

- 委員等 ・デザインガイドラインは看板の規制や色の基準を示すなど、美しいものを創るというよりは、マイナス要因を抑える目的の方が強いかもしれない。
- 事務局 ・緑の景観などについては、歩行空間の緑地整備など見栄えを重視した面もある。
- 委員等 ・ビジョンでは、それらの細かいことよりも“美しいまちづくりを目指す”というメッセージを込めることが重要である。
- 委員等 ・“美しい”の文言は是非入れたい。まちづくりの基本的なコンセプトは美しいまちをつくることなので、その方向で検討していきたい。
- 委員等 ・本日の資料には反映されていないようだが、前回の会議でも話に出た環境デザインコードについてはどのように考えているのか。
- 委員等 ・環境デザインコードは、勾配屋根の義務化、窓の仕様、住棟の向き、建物の高さの規制など、環境を形態に置き換えて規制するものことである。全国でもおそらく例がないものであり、作ってみてはどうか。
- 事務局 ・検討する価値はあると思うが、ビジョンの中でそれらの詳細について取り上げることは難しいと考えており、表記方法を含めて検討したい。

#### (交通)

- 委員等 ・交通分野で自転車利用についての言及があることは素晴らしい。自転車道の整備費用は比較的安いと思われるため、きちんと整備することをビジョンの中で示せるとよい。日本では自転車速度は遅く考えられているが、自転車道が整備されると速度も上昇(オランダでは 30km/h 程度で走行する人も多い)して危険性が増すため、自転車を原動機付自転車レベルの交通機関として考える必要がある。
- 委員等 ・「2.2分野別(3)交通 中期」の3つの具体的取組みの1つに“自転車利用がしやすい環境づくり”とあるが、“安全”の文言を追記した方が良い。

#### (推進体制)

- 委員等 ・「～を推進する」「～を目指す」というような抽象的な表記が多く、ビジョンを具体化するための福岡市としての施策が盛り込まれていない。実証事業ではなく長期的なビジョンを遂行するためには、高度な技術の導入だけではなく維持する枠組みが機能していることが重要であり、それらは目玉にもなり得る。国が中長期目標の達成のためにキャップ・アンド・トレード方式や省エネ基準の義務化などの施策を掲げているように、福岡市としての制度や規制を打ち出す必要があるのではないか。
- 事務局 ・ご指摘の件については、福岡市全体の計画である地球温暖化対策地域推進計画との兼ね合いもあるので、環境局と相談の上、何が盛り込めるのかを検討していきたい。
- 委員等 ・「5. ビジョンの具体化に向けて」にある3つの内容に加え、4つ目として、新たな施策の導入が必要ということになる。
- 委員等 ・これからの福岡市の温暖化対策として、従来の補助金制度だけではなく規制と一体になった誘導施策などの思い切った施策が必要と考えており、現在の検討課題である。ビジョンにそれらの内容をどこまで反映できるかについては、ビジョンがアイランドシティ事業計画に基づく個別計画という位置づけを踏まえてこれから検討していきたい。

委員等 ・先程の委員のご指摘にも長期的な視点の話があったように、継続的なまちづくりには仕組みや施策などの柔軟な対応が重要だと思われる。

(その他)

委員等 ・ビジョンでは様々な具体的な取組みが上げられているが、それらを実現するための市民、事業者、行政の役割分担についてはどの程度の記載を想定しているのかが気になる。  
・また、アイランドシティ環境配慮指針とビジョンの関係について、特に市5工区に関しては整理する必要があると思われる。

委員等 ・日本全体の資源やエネルギーのフロー図があるが、福岡市あるいはアイランドシティ版をつくってはどうか。大阪市では既につくっている。

事務局 ・フロー図については内容を確認させて頂きたい。

委員等 ・海に囲まれている立地特性を生かした海水や風などの自然エネルギーの利用、ヒートアイランドを抑制する風の道なども検討してはどうか。

事務局 ・立地特性については再整理を行い、各分野の考え方にも反映させていきたい。

委員等 ・海の風については、塩害により設備機器が錆やすくなるなどのデメリットもあるため、慎重に取り扱う必要がある。

委員等 ・市民の立場から考えた場合、中長期的には高齢化社会への対応が欠かせないと思われるので、その観点からの記載が必要と思われる。

・また、これまで非常に多くの計画や指針が策定されているが、ビジョンの内容については、市民にどのように訴求していく予定なのか。

事務局 ・高齢化社会への対応については、「ふくおか健康未来都市構想～アイランドシティにおける健康未来都市づくり～」を策定しており、その中で高齢者に対する構想は持っている。ただし、ビジョンの中での言及は必要と思われるので、どのように盛り込むかを検討したい。

・ビジョンの訴求については、細かい基礎データ情報を除いたパンフレットを作成し、アイランドシティに関心のある市民や事業者の人達に示していきたい。その場合、福岡市の全体計画と内容の整合性を取る必要があるので、福岡市におけるエリア計画という位置づけになると考えている。

以上